

令和4年度 事業内部評価

令和4年度に浜松市文化振興財団文化事業課にて開催した鑑賞型事業の内、17公演(8企画)について内部事業評価を実施しました。評価指標は前年度事業評価方式を継続して採用しています。

1 実施した内部事業評価項目

■目標設定

事業開催目的及び狙い、損益分岐点の設定、予算設定、収益目標額、自主財源投入予定額

■事業成果と評価

目的及び狙いの達成度、入場者・参加者・実績値、収支状況

■結果確認、改善点および今後の方向性

達成度・実績値・収支状況による総合評価、担当者・所属長による状況分析及び改善点

2 評価点基準及び総合判定基準根拠

I 目標達成度

満足度	アンケート結果による顧客満足度（良い・大変良いの集計）の割合。そのまま評価点に表記。
-----	--

II 参加者等

券売率	当初設定された有効販売数に対する販売実績率。100%で完売。
入場率	有効座席数に対する入場者実績率。100%で満席。
達成率	券売目標率に対する券売率の達成率。100%で目標達成。

評価点は下記の表により決定

	点数
満席	100
目標達成率 101%～満席未満	90
目標達成率 100%～91%	80
目標達成率 90%～81%	70
目標達成率 80%～71%	60
目標達成率 70%～61%	50
目標達成率 60%～51%	40
目標達成率 50%～41%	30
目標達成率 40%～31%	20
30%以下	10

Ⅲ 収支状況

収入率	当初予定収入額に対する収入実績率。100%以上で収入増。
支出率	当初予定支出額に対する支出実績率。100%以下で経費削減。
財源投入率	当初予定されていた自主財源投入額に対する投入額実績。 100%以下で当初予定より投入額減少。0%で投入額0円、事業単体で収支は黒字。 また予定されていなかった投入額については実額で表記するとともに説明を加える。

評価点は下記の表により決定

	点数
完売	100
収支プラス～完売未満	90
収支0円～9%減	80
10%減～19%減	70
20%減～29%減	60
30%減～39%減	50
40%減～49%減	40
50%減～59%減	30
60%減～69%減	20
70%減以上	10

※収入には自主財源等を含める

Ⅳ 総合判定 評価総合結果の点数により、下記の通り設定

90点～	AA 非常に優秀な水準
70点～	A 優秀な水準
40点～	B 良好な水準だが改善改良の余地あり
20点～	C 一応の水準だがかなり問題あり
0点～	D 多くの問題あり

3 事業評価結果一覧

■事業概要					
事業名	幸和ハウジングクラシックスペシャル アクト・ニューアーティスト・シリーズ 2022				
開催日・場所	令和4年5月8日、7月10日、9月25日、12月4日 令和5年1月7日（令和3年度の振替公演）、2月12日（全6回） アクトシティ浜松 音楽工房ホール				
基本方針分類	交わる（音楽を通じて市民の文化的満足度を高めるとともに、水準の高い芸術文化に触れる機会を提供）				
内容・目標	国内外の著名コンクールの入賞者など、今後の活躍が期待される若手アーティストを採り上げることで、市民の音楽への関心を高めていくことを目的としている。 スポンサー（協賛金）の継続確保により、引き続きクラシック初心者でも来場しやすい価格設定を実現。割り引いたお得な価格のパスポート（5回通し券）を設定することでリピーターを確保。演奏後のアフタートークを企画し、演奏家と聴衆の交流を図り、クラシックファンの拡大を狙う。アクトシティオープン以来続けているシリーズ。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度（満足度）	90.0%	アンケート回収枚数 432 枚 回収率 47.7%			90 点
II 参加者等	券売率	76.1%	目標とする券売率を大きく上回り、目標達成率は 100%越えとなった。パスポート（5回分）の販売が非常に好調、全販売数の 60%を占めた。		90 点
	入場率	83.9%			
	目標達成率	135.0%			
III 収支状況（予算比）	収入率	123.5%	全体スケジュール・予算確定後に 2021 年中止事業を振替公演として実施したため、支出が予算より増。		50 点
	支出率	119.3%			
	財源投入率	130.1%			
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A
質的成果	I 目標達成度	90 点	30	27.0 点	
	量的成果	II 参加者等	90 点	40	
III 収支状況		50 点	30	15.0 点	
			合計	78.0 点	
状況・改善点	<p>パスポート購入者が 60%と過半数を占めリピーターが多いことが、入場率の安定と券売率の目標達成につながっている。</p> <p>また本企画の特色でもあるアフタートークも昨年度は飛沫感染防止のため中止していたが、今年度から感染防止対策を行い実施。昨年度中止していた紙によるアンケートを試行的に復活。</p> <p>出演者自身の SNS にも情報発信をお願いするなど、幅広い広報を行った。今後も YouTube 等、様々な広報活動を検討し継続したい。</p>				

■事業概要					
事業名	アクト・プレミアム・シリーズ 2022 ～世界の名演奏家たち～				
開催日・場所	令和4年7月8日（公演中止）、8月31日、9月28日、12月20日、 令和5年2月16日（全5回／内1回中止） アクトシティ浜松 中ホール				
基本方針分類	育てる・交わる（音楽を通じて市民の文化的満足度を高めるとともに、水準の高い芸術文化に触れる機会を提供）				
内容・目標	世界的に著名な演奏家を取り揃えたコンサート・シリーズ。音響で定評のある中ホールを会場とし、一流クラシック演奏を提供する。 本格クラシックファンの満足度向上と音楽人口の拡大を目指す。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度（満足度）	98.6%	アンケート回答 69件 回答率4.2%			99点
II 参加者等	券売率	36.1%	安全対策は引き続き行っているが、コロナ前の主な来場者層であった高齢のクラシックファン層の戻りが鈍く、券売率・入場率が伸び悩んでいる。		40点
	入場率	40.9%			
	目標達成率	60.0%			
III 収支状況（予算比）	収入率	42.6%	5公演中1公演が中止（演奏者来日中止）。来場者がコロナ前水準に戻らず収入が目標に達せず、財源負担増。		40点
	支出率	63.1%			
	財源投入率	127.1%			
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 B
質的成果	I 目標達成度	99点	30	29.7点	
量的成果	II 参加者等	40点	40	16.0点	
	III 収支状況	40点	30	12.0点	
			合計	57.7点	
状況・改善点	2017年より開始した、本格クラシックファン及びクラシック初心者卒業した方向けの、一流クラシック公演シリーズ企画。 以前は年間パスポート（セット券）が完売する程、固定客の確保ができていたが、コロナ以前の券売率には戻っていない。券売率を高める対策と、戻ってきていない以前の来場者層をどう呼び込むか、SNS等のさらなる活用により新規ファン獲得を検討する。また、このシリーズを継続する意義を議論し、健全な事業収支を目指していく。				

■事業概要					
事業名	Road to 2027 プロジェクト in 浜松 仲道郁代ピアノ・リサイタル Vol.5「知の泉」(5/21) Vol.6「前奏曲」(10/16)				
開催日・場所	令和4年5月21日 アクトシティ浜松 中ホール 令和4年10月16日 アクトシティ浜松 中ホール				
基本方針分類	育てる・交わる（音楽を通じて市民の文化的満足度を高めるとともに、水準の高い芸術文化に触れる機会を提供）				
内容・目標	地元出身のピアニストである仲道郁代が、自身の演奏活動40周年とベートーヴェン没後200年が重なる2027年に向けたリサイタル・シリーズを、東京・浜松で開催。毎年テーマを設け、トークを交えた演奏会を実施する。 地元の小学生から高校生までの学生無料招待枠を設け、若い世代を含めて音楽人口の裾野拡充を目的とする。 指定寄附による事業企画。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度（満足度）	93.8%	アンケート回答 80件 回答率 6.3%			94点
II 参加者等	券売率	71.1%	学生招待応募枠はいつも通りの人気だったが、一般券売率が目標に届かず、入場者数も目標にわずかに達しなかった。		80点
	入場率	63.2%			
	目標達成率	98.0%			
III 収支状況（予算比）	収入率	93.5%	支出を削減できたため、収入が目標より少なかったが、ほぼ予算通りの収支状況となった。		60点
	支出率	94.1%			
	財源投入率	96.2%			
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定
質的成果	I 目標達成度	94点	30	28.2点	
量的成果	II 参加者等	80点	40	32.0点	
	III 収支状況	60点	30	18.0点	
			合計	78.2点	
状況・改善点	<p>本事業は指定寄附金により企画。「多くの若い世代に聴いてもらいたい」との意向に従い、青少年への無料招待を毎回実施している。</p> <p>招待の10代から、一般入場者の70代まで幅広い層の入場者だった。仲道さんのファンが年々固定客として定着し、入場者数増につながっている。</p> <p>こどもと保護者のペアでの来場者が昨年同様1回目35%、2回目50%。今後も開催主旨である若年層の招待を積極的に広報する。</p> <p>次年度も引き続き指定寄附事業として継続。</p>				

■事業概要					
事業名	令和4年度 松竹歌舞伎 舞踊公演				
開催日・場所	令和4年7月18日 アクトシティ浜松 大ホール				
基本方針分類	育てる・伝える（音楽を通じて市民の文化的満足度を高めるとともに、日本の伝統芸能に触れる機会を提供。）				
内容・目標	毎年恒例のイベントだが、コロナ禍により2年間中止となり、今回3年ぶりの開催。日本の伝統芸能を浜松で鑑賞できる機会を提供し、歌舞伎の魅力を伝えるとともに、初心者でも来場しやすいようにプレセミナーを開催。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度（満足度）	98.6%	アンケート回答 69件 回答率 5.8%			99点
II 参加者等	券売率	47.3%	コロナ前に比べて団体販促が振るわず、目標達成に及ばなかった。		60点
	入場率	54.0%			
	目標達成率	74.0%			
III 収支状況（予算比）	収入率	73.4%	チケット販売目標には届かなかったため、自主財源を投入し収支補填に充てた。		70点
	支出率	92.1%			
	財源投入	1,670千円			
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A
質的成果	I 目標達成度	99点	30	29.7点	
量的成果	II 参加者等	60点	40	24.0点	
	III 収支状況	70点	30	21.0点	
			合計	74.7点	
状況・改善点	3年ぶりの開催となったが、団体販促などチケット販売が目標に達せず、券売率も低く、自主財源を投入する収支結果となった。以前までは歌舞伎公演では黒字が発生する健全な事業だったが、従来の固定購入層だった高齢者の来場率が減少傾向にあることから、来場者の若返りや新規顧客の獲得など券売率を向上する手段を検討しなければならない。役者によって券売率が影響されることが多々あるが、今後もプレセミナーなどにより新規の歌舞伎ファン層の拡大を進めたい。				

■事業概要					
事業名	古澤巖×山本耕史 Dandyism Banquet				
開催日・場所	令和4年10月3日 アクトシティ浜松 大ホール				
基本方針分類	育てる・交わる（音楽を通じて市民の文化的満足度を高めるとともに、水準の高い芸術文化に触れる機会を提供）				
内容・目標	古澤巖（ヴァイオリン）、山本耕史（語り・歌）、塩谷哲（ピアノ・音楽監督）、小沼ようすけ（ギター）、大儀見元（パーカッション）、井上陽介（ベース）によるダンディズムをテーマにした質の高いエンターテインメント作品の提供。エンターテインメントを入り口として、音楽の鑑賞機会の拡大を狙う。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度（満足度）	93.8%	アンケート回答 32件 回答率4.8%			94点
II 参加者等	券売率	39.1%	券売時期にコロナ患者が激増し、券売率に影響があった。出演者のファンクラブでの販売があまり振るわなかった。		40点
	入場率	43.7%			
	目標達成率	51.0%			
III 収支状況（予算比）	収入率	54.6%	当初は自主財源を低めに設定していたが、券売率が目標に到達しなかったため、大幅増となった。		60点
	支出率	101.3%			
	財源投入	409.0%			
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 B
質的成果	I 目標達成度	94点	30	28.2点	
量的成果	II 参加者等	40点	40	16.0点	
	III 収支状況	60点	30	18.0点	
			合計	62.2点	
状況・改善点	<p>目標となる券売率を達成することができず、想定を上回る自主財源の投入となった。要因は、コロナ感染拡大などの影響のほか、本公演の特徴である「様々なジャンルを網羅した挑戦的なコンサート」という魅力を十分に広報することができず、伝えきれなかった点も反省している。経済産業省の補助金を活用することにより赤字幅を縮小できたが、今後同様の事業を企画する場合は、魅力を如何に伝えるかなど広報手段の工夫が重要。</p>				

■事業概要					
事業名	横坂源チェロ・リサイタル 2022				
開催日・場所	令和4年11月23日 アクトシティ浜松 中ホール				
基本方針分類	育てる・交わる（音楽を通じて市民の文化的満足度を高めるとともに、水準の高い芸術文化に触れる機会を提供）				
内容・目標	浜松在住の国際的なチェリストである横坂源のリサイタル。 浜松を起点に世界で活躍する中、長年大切に取組んだ3つのチェロ・ソナタを披露。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度（満足度）	96.3%	アンケート回答 27件 回答率 4.3%			96点
II 参加者等	券売率	57.7%	当初、券売が伸び悩んだことから、市内及び近郊の学校や音楽団体などの弦楽器を中心に活動されている方への周知を行った結果、目標に近い数値となった。		70点
	入場率	62.0%			
	目標達成率	90.0%			
III 収支状況（予算比）	収入率	58.5%	参加者数があと少しで目標達成だったが、支出も押さえたため、ほぼ収支0に近い数値となった。		80点
	支出率	74.0%			
	財源投入	637円			
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A
質的成果	I 目標達成度	96点	30	28.8点	
量的成果	II 参加者等	70点	40	28.0点	
	III 収支状況	80点	30	24.0点	
			合計	80.8点	
状況・改善点	団体販促やファン層への広報が効果的に動き、目標に近い数値となった。 更に収支面で健全になるために、新たなファン獲得や団体購入数の増を狙いたい。今回、宣伝用のPR動画撮影にご協力いただくことが出来たため、今後も情報発信の面でご本人の協力をお願いしながら、浜松在住のアーティストとして告知を広く行っていきたい。				

■事業概要					
事業名	世襲戦隊カゾクマン				
開催日・場所	令和4年11月25日～27日 浜北文化センター 大ホール				
基本方針分類	育てる・伝える（舞台芸術を通じて市民の文化的満足度を高めるとともに、水準の高い芸術文化に触れる機会を提供）				
内容・目標	浜松在住の俳優を取り上げ、浜松市から発信している俳優をアピールするとともに、テレビで活躍する芸能人たちによる一流のエンターテインメントをお届けする。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度（満足度）	92.5%	アンケート回収枚数 62枚 回収率 7.8%			93点
II 参加者等	券売率	45.7%	1日1公演、3日間で3部作。財団のほか出演者のSNSなどを通して開催を広く発信したが、券売率は目標に達しなかった。		40点
	入場率	49.2%			
	達成率	57.0%			
III 収支状況（予算比）	収入率	46.9%	券売率が振るわず、大幅な赤字になった。		20点
	支出率	97.2%			
	財源投入	312.8%			
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 B
質的成果	I 目標達成度	93点	30	27.9点	
量的成果	II 参加者等	40点	40	16.0点	
	III 収支状況	20点	30	6.0点	
			合計	49.9点	
状況・改善点	浜松在住の俳優を起用した舞台芸術だったが、券売率につながらず大幅な赤字事業となった。3日公演のうち1日は平日だったため、特に販売状況が良くなかった。俳優には地元雑誌へのインタビューや、ご自身のSNSによる告知など大変協力いただいたが、販売が伸び悩んだ。ロングラン公演や複数日に及ぶ作品の販売戦略など、新たな課題として研究していく。				

■事業概要					
事業名	手寫葵 Symphonic Concert 2023				
開催日・場所	令和5年2月23日 アクトシティ浜松 中ホール				
基本方針分類	育てる・交わる（音楽を通じて市民の文化的満足度を高めるとともに、水準の高い芸術文化に触れる機会を提供）				
内容・目標	ジブリ映画『ゲド戦記』をはじめ、映画やテレビドラマの主題歌を歌う手寫葵のコンサート。質の高いエンターテインメントの提供及びクラシックファン以外の幅広い世代の方がアクトシティ浜松に訪れる機会を提供。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度（満足度）	82.4%	アンケート回答 17件 回答率 2.6%			82点
II 参加者等	券売率	67.9%	券売時期にコロナ患者の急増により販売が伸び悩み、目標を達成できなかった。		60点
	入場率	68.0%			
	達成率	75.0%			
III 収支状況（予算比）	収入率	73.5%	当初の自己財源投入は0円だったが、収入実績が低く財源を投入する結果となった。		60点
	支出率	98.6%			
	財源投入	1,697千円			
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 B
質的成果	I 目標達成度	82点	30	24.6点	
量的成果	II 参加者等	60点	40	24.0点	
	III 収支状況	60点	30	18.0点	
			合計	66.6点	
状況・改善点	<p>券売時期にコロナの感染が拡大。チケット販売が伸び悩み、当初予定していなかった自主財源の投入となった。</p> <p>本公演は令和3年度にも共催事業として開催しており、その時はチケットがほぼ完売するほど人気があった。今回は、前回公演と比較すると300枚ほど販売数に開きがある。今後、同じ公演を再招聘する場合、前回の開催実績のほか、前回からの開催期間や当時と現在の話題性の違いなどを考慮の上、検討する必要がある。</p>				